

音楽科学習指導案

豊田郡木江町立木江中学校 藤岡 奈美子

1 学年 第1学年(男子6名,女子5名)

2 題材名 箏に親しもう

3 題材について

教材観

わたしたちの生活の中には西洋音楽があふれている。そういう環境で育ち、西洋音楽の感覚を持った子どもたちにとって日本音楽は異質の音楽と感じるだろう。その子ども達に抵抗なく日本音楽に触れさせるためには、まず、日本音楽に対して興味を持たせることが大切である。そのためには、和楽器の体験が効果的と考えられる。

和楽器の中でも箏はポピュラーであり、事前の意識調査でもほとんどの子どもが知っていると答えている。また、初心者にも比較的容易に音を出すことができるので、日本音楽に親しみを持つきっかけになりやすいと考え、箏の体験を設定した。

箏は奈良時代に、中国(唐)から雅楽の楽器として伝来した。伝来した箏は、雅楽で用いられる楽箏であった。現在私たちが演奏する箏は江戸時代に八橋検校によって完成された俗箏である。八橋検校は調弦法を確立するなど箏曲の発展に功績を残した。そして箏の代表曲といえる「六段の調べ」を作曲した。この題材のまとめとして、「六段の調べ」を鑑賞させる。また、箏は大陸から伝来したということで、アジア地域にも箏の仲間がある。箏に関連付けてアジアの音楽の鑑賞にも結び付けていく。

指導観

自分自身が体験して味わう感動というのは何事にも変えがたいものであり、いつまでも心に残っているものである。この箏の体験を通して日本の文化を味わわせ、印象に残る体験にさせたい。

箏の仲間ということで、アジアの箏類の鑑賞もする。そこでアジアの音楽の特徴や、文化などを感じ取らせたい。

また、地域の達人をゲストティーチャーとして招き、箏曲のライブ演奏を鑑賞させる。プロの演奏を近くで鑑賞し、楽しませ、感動させたい。また、地域の達人ということで、自分の住んでいる地域にも素晴らしい伝統が残っているということを意識させたい。

今後の授業時数削減に向けて、この題材では表現と鑑賞の関連を図った学習計画を立てた。限られた時間数の中で、表現においても鑑賞においてもより多くの活動をさせたいと考える。

生徒は中学生になってからは、今回初めて日本音楽に出会う。よって、その出会いを素晴らしいものにし、日本音楽に親しみを持つきっかけになるようにしていきたい。

4 学習目標

日本とアジア諸民族の箏類の音楽の特徴を感じ取るとともに、
箏の演奏を体験して我が国の音楽に親しむ

箏の基礎的な奏法を知り、自由な発想で表現を工夫する。

アジアの箏類の特徴、奏法、その他(衣装、飾り、響き等)を知ることにより、その国の文化や生活に慣れる。

箏類の音楽に親しむことを通して、日本の音楽やアジア諸民族の音楽について知る。

唱歌を歌うことにより、箏曲の伝習法を知り、箏の特徴(音色、余韻、奏法等)を把握する。

5 評価

音楽への関心・意欲・態度

- ・ 進んで模倣、「さくらさくら」の演奏をするといった表現活動に取り組んでいる。
- ・ 進んで「わたしのさくら」の創作にとりくんでいる。
- ・ 幅広く音楽を楽しんでいる。

音楽的な感受や表現の工夫

- ・ 箏の特徴(音色、余韻、奏法等)を意識しながら、「さくらさくら」の模奏や「わたしのさくら」の創作活動をしている。
- ・ 唱歌を歌い、箏の特徴(音色、余韻、奏法等)に気づくことができる。

表現の技能

- ・ 箏の特徴(音色、余韻、奏法等)を意識し、美しい音色に気をつけて表現できる。

鑑賞の能力

- ・ 箏類の音楽の特徴を感じ取って聴くことができる。

6 学習計画(全5時間)

次	学習のねらい	時	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価
第一次	箏類の音楽に親しむ	第一時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> アジア諸国の箏の音楽を聴いてみよう </div> 日本の箏曲とアジア諸国の箏類の演奏を聴く 音楽の特徴を感じ取る それぞれの国の違いや特徴に気づく(ワークシート) 音楽の特徴や楽器の特徴に気づく	日本・朝鮮半島・ベトナムの箏類の音楽を聴かせる 初めは音のみの比較をさせる 視点を絞り聴かせる 実際に映像を見せ、各地域の箏の形、音色、奏法等を把握させる 話し合い活動を取り入れる	

				この他にも多くの箏があることも触れる
第二次	日本の箏について知る	第二時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「六段の調べ」を鑑賞しよう</div> <p>ゲストティーチャーの演奏を鑑賞し，感じたことを発表する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">唱歌を歌おう</div> <p>冒頭部分の唱歌を歌う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">箏に触れよう</div> <p>自由に触れ，音程や余韻の変化について考える 再び鑑賞して確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">奏法を知ろう</div> <p>ゲストティーチャーによる箏の奏法の解説と演奏を聴く</p>	<p>前時の気づきを膨らませる</p> <p>体験を通して演奏への意欲を持たせるようにする</p> <p>奏法に着目させる</p>
第三次	箏の演奏を通して日本の音楽に親しむ	第三時・第四時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「さくらさくら」を演奏しよう</div> <p>教師の範奏で模奏する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「わたしのさくら」を創作しよう</div> <p>自由な発想で表現を工夫する</p>	<p>自由な奏法の工夫を通して，作品作りへの意欲を持たせる</p> <p>「さくらさくら」を色々な奏法を用いたり，旋律を変化させて，変奏曲を創作させる</p>

		第 五 時	<div data-bbox="544 208 954 327" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「わたしのさくら」を 発表しよう</p> </div> <p data-bbox="587 367 954 539"> 自分の創作した作品を発表する 友達の演奏を聴き，評価しあう </p> <div data-bbox="544 562 954 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>箏曲「さくら変奏曲」 箏曲「六段の調べ」を 鑑賞しよう</p> </div> <p data-bbox="587 775 954 853"> ゲストティーチャーの演奏を 聴き，楽しもう </p>	<p data-bbox="1023 775 1294 898"> 他の箏曲の鑑賞を通して日本の伝統音楽に親しみを持たせる </p>	
--	--	-------------	---	--	--

7 学習活動の展開

第2時 (2 / 5)

(1) 目標

箏の基本的な奏法を知る。

箏の特徴(音程, 余韻の変化, 奏法等)を感じ取る。

(2) 展開

学習活動	生徒の学習活動	教師の支援・留意点	評価	時間
導入 鑑賞	本時の流れを知る 箏曲「六段の調べ」の初段の冒頭部分を聴き, 感じたことを発表する	視点を絞り聴かせる		10分
唱歌を歌う	初段の冒頭部分の唱歌を歌い, 音程, 余韻の変化, 奏法を感じ取る	歌いにくいようであれば語りでも良いこととする		10分
箏に触れる	実際に箏に触れ, どうすれば音程や余韻が変化するか考えて発表する	課題が解決できるよう助言する		20分
鑑賞	再び「六段の調べ」の初段を鑑賞して音程, 奏法を確認する 「六段の調べ」の鑑賞から箏の奏法を知る	奏法に特に注目させる (右手の奏法) かき手, 割り爪, 弾き連, 合わせ爪, 流し爪, すり爪, 散らし爪 (左手の奏法) 後押し, 押し手, つき色, 引き色, ゆり色 これらの奏法を次時の創作で利用するよう助言する		10分
まとめ	ワークシートに本時のまとめを記入する	次時に箏を演奏することを予告する		

第5時 (5 / 5)

(1)目標

箏の演奏を通して，日本音楽に親しむ

箏の音色や響きを味わいながら演奏する

箏曲の鑑賞を通して響きの余韻や雰囲気味わう

(2)展開

学習内容	生徒の学習活動	教師の支援・留意点	評価	時間
導入	本時の流れを知る	ゲストティーチャーの紹介をする		30分
発表・鑑賞	発表に向けての準備をする 順番に自分の作品を演奏する 演奏を聴いたらワークシートに感想や気づきを書き発表する(2人程度)	工夫しているところに気づかせ，発表させる		
鑑賞	ゲストティーチャーの演奏を聴く 1. 箏曲「さくら変奏曲」 2. 箏曲「六段の調べ」	両曲とも変奏曲なので旋律の変化に気づかせる 奏法による音色や響きの違いを感じ取らせる		15分
まとめ	ノートに感想や気づきをまとめる			5分